

ハッピーウーマンサークル（金城学院大学）

活 動 実 績 調 査 書

(1) 活動の名称	生活経済リテラシー向上委員会
(2) 活動の目的・成果（※何を指し、何が成果として得られたかについて記載）	<p>本活動は、学生主体の FP 講座提供により、瀬戸市民の生活経済リテラシーを向上させることを目的とする。そして学びを実生活で生かせるような身近さを大切にすることができた。また、効果としては、4 点あった。第 1 に、参加者となる瀬戸市民が疑問に思うことを学生と一緒に学ぶことができた。プロの FP 講師ではないため、質疑応答も聞きやすい場とすることができた。第 2 に、講座を担当する学生自身が深い学びが得られる。講義を聴講（インプット）する機会が多い中、大人に説明（アウトプット）できるよう事前準備を行うことで、疑問をなくせるような自発的な学びが期待される。第 3 として、コロナウイルスの影響により人生のプランや現在の所有しているお金の使用方法などを見直す機会になったため、金融リテラシーを向上させることができた。第 4 としては、コロナ禍で交流が減っている市民同士の話し合いや同じような疑問を持ったひと同士が集まることにより、地域の人々の交流が深まった。</p>
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	<p>トライアル期間を導入し、改良を重ねたのちに本番を迎えるといった形式をとる。参加予定人数は 10 名とし、本学生活マネジメント学科の学生 1～4 年生で構成する。会議は原則対面を予定しているが、コロナ禍に対応すべく、遠方から大学へ通う学生も参加しやすいハイブリッド型（一部講座を録画での配信）とした。</p> <p>活動の手順は以下の通りである。</p> <p>1 生活経済リテラシーニーズの把握（アンケート収集）：6 月～8 月</p> <p>瀬戸市在住の社会人（20 代～60 代）をターゲットとし、生活経済リテラシーに関する理解度や講座で得たい分野のニーズを把握することができた。また、大学のオープンキャンパスでも調査を実施し、保護者からも回答をいただき、幅広い年代からの調査を行った。調査に当たり、担当教員から何度も指導を受け、正しい回答結果を得るための修正を行った。背景として、教授が実際に講演を行った際に、リタイア後の方においては保険の見直しへのニーズが低かったという実態を反映させたい。ニーズの把握にあたり、パーティセとにて行われる講座の前後、街頭、近隣のスーパーマーケットなどでの声掛け等でアンケート収集の依頼を予定していたが、コロナウイルスの蔓延により、中止した。しかし、サークルの部員の SNS での告知などを通して、結果として約 350 名の回答を得ることができた。回答形式は Google Form を活用し、匿名とする。（後日の講座の開催に希望の方はメールアドレスの記入を任意で依頼）</p> <p>目的：各ライフステージに応じた生活経済リテラシーニーズの把握 背景：年齢や階層により、必要としている学び（情報）が異なる。そこで、各ライフステージに応じたニーズを把握することが質の高い講座の提供につながると考える。</p> <p>2 テーマの選定・トライアル講座の作成：9 月</p> <p>「生活経済リテラシーニーズの把握」で得た結果をもとに、年代に合わせ、希望が多かった計 9 パターンの講義を作成する。それぞれ違ったテーマや講義の形態を導入する。配布テキストも各講座向けに学生自ら作成する。著作権違反の防止や誤った情報の提供が無いよう、金城学院大学 生活環境学部 生活マネジメント学科の古寺浩教授が監修を行う。</p> <p>3 講座参加者の予約システム構築：10 月末</p> <p>Google Form およびリンクへ簡単にアクセスできるよう QR コードを作成する。QR コードは、広報ツールに添付する。質問事項を確定させ、フォームの中に反映した。Google フォームでは、感染症対策の為、人数制限を設け、人数を管理するための設定を行う。また、参加者には</p>

日程が近くなった際に詳細をお送りできるようフォーマットを作成。なお、参加希望者の一覧はスプレッドシートで管理した。

また、本サークルのホームページで告知や広報せとへの掲載をおこなった。

4 トライアル講座の実施・フィードバック：10月末

学生が一般市民に見立てた先生方と学生に対してトライアル講座を本番と同じ日程で3日間行った。コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンラインでの実施ができるように用意も同時並行で行った。実施した。場所は大学構内で、プロジェクターと書画カメラを用いながら講座を進めた。コロナウイルス感染防止対策に努めるべく、検温やアルコール消毒の実施を行い、密にならないよう実施を行っている学生同士の間隔をあけて実施した。また対面での参加者はマスク着用を必須とした。1回の参加者を5人～10人とし、1時間半程度を1セットとする。

1日目は「LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用した生活設計を考える講座」「知らないで損?!相続の世界」「すごろくで学ぼう保険!」の3講座、2日目は「基礎を学ぶ・退職金」「今からでも遅くない!知っていますか iDeCo と NISA」「今から始めるふるさと納税」「始めよう!資産運用で未来を築く」の4講座、3日目は「知らないで損?!相続の世界」「103万超えてませんか?」「LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用した生活設計を考える講座」「すごろくで学ぼう保険!」の4講座の3日程で行った。参加者には満足度アンケートへの回答を求め、感想を含むフィードバックを依頼した。頂いたご指摘は、本番講義で生かすべく進行プログラムやテキストなどの修正に活用し、本番に備えた。

実際の修正箇所としては、話すスピードや用語の専門すぎる点、クイズの問題の不透明さなどがあげられた。

⑤広報ツールの作成・印刷(発行):10月

(1)ポスター掲示

本番講義の日時、内容など詳細を示したポスターを作成した。作成した広告は、瀬戸市図書館、瀬戸商工会議所、市役所の構内等に掲示を依頼した。なお、申し込みフォームへアクセスできるQRコードも添付することによって、集客を期待する。

(2)粗品による広告

本番講義の日時、内容などの詳細を示した粗品(菓子)を作成する。作成した粗品は、生活経済リテラシーのニーズ調査依頼時に配布する。なお、申し込みフォームへアクセスできるQRコードも添付する。

(3)チラシ広告

デザイン案は月から作成し、日時や詳細などを埋めるのみとしておく。詳細が確定した後に学生が各々で印刷を行った。なお、申し込みフォームへアクセスできるQRコードも添付する。2パターンのチラシを作成し、場所や時期によって仕様を変更した。

5 生活経済リテラシー啓発冊子の作成:10月～11月

本番講座のテキストとしても用いる冊子を作成する。トライアル講座を踏まえた修正を施し、講座に参加しない人にも見てもらえるような内容を目指す。11月2週目までには原稿を完成させ、印刷業者に製本を依頼した。実際にはあまり余裕のある対応はできなかったが、各9講座の内容やクイズなどが盛り込まれて充実した内容となった。

6 本番講座の実施:12月

感染症対策の為、参加人数を10人程度とし、2021年12月26日(日)、2022年1月8日(土)、1月9日(日)の計3日程行った。場所はパーティセと市民交流センターが改装工事の為、瀬戸蔵を使用し、プロジェクターと書画カメラ、講座の教材や学生が作成した当日備品等を用いながら講座を進めていった。「生活経済リテラシー啓発冊子」をテキストとし、配布する。また、コロナウイルス感染防止対策に努めるべく、検温やアルコール消毒の実施を行い、密にならないよう間隔をあけて個人のスペースを養生テープで仕切り、万全の対策を行って実施した。加えてマスクの着用を必須とした。トライアル講座を踏まえた本番講座を行い、実施後には満足度アンケートして、本活動の意義や需要について第三者の意見を収集する。

また、実際に行った感想として、参加者に各 2 枚のメモ用紙を配付し、感想や気づきなどを記入していただいた。それらが集まることによって当日参加しなかった人々も次回は違う講座に参加したいという意欲を掻き立てることとなった。

(4) 活動実施上の工夫 (※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載)

・瀬戸市民をはじめとした一般市民向けに金融に関する意識の調査を行い、年代による意識の違いなどを調べることで、瀬戸市の方々に向けた講座を作成することができた。

・学生の視点を大切に。本活動の目的は、学生主体の FP 講座提供により、瀬戸市民の生活経済リテラシーを向上させること。ファイナンシャルプランナーとして働く人ではなく、ファイナンシャルプランニングを学ぶ学生が運営するメリットを念頭に置き、伝えるだけの一方的な講義にならないよう心掛けた。また、目的達成に向けて学びを実生活で生かせるような身近さを大切にすべく、双方向のコミュニケーションに努めた。

・講義でも活用する「生活経済リテラシー啓発冊子」を作成することで、講座に参加できない人にも学びを提供できた。実際の参加者も家族や友人のために持ち帰りたいという声を聴くことができ、活動の認知度を高めることができた。

・コロナ禍であることから、使用する教材をアルコールで除菌や筆記用具などは粗品として渡すことができ、感染症対策を徹底することができた。

・広報せとに対しての告知依頼をしたことによって、瀬戸市の皆様に対してダイレクトに呼びかけをすることができた。また、調査時に参加していただいた方々にも開催の告知をすることができたことから、興味を持って参加してくださる人を中心に講座を開催することができた。

(5) 活動実施上の反省点 (※具体的な反省点等について記載)

【反省点】

・実行の時期が押してしまい、当初の予定より 1 か月ほど遅くなってしまった。今後は、実行するにあたり、余裕を持ったスケジュール調整を心掛ける。

・コロナウイルス感染拡大状況が日々変わり、予想されない事態が多々発生し、そのことで学生が混乱することがあったため、複数パターンの実施方法を予定しておく必要があった。

・コロナウイルスにより、外出を控える方が多く、講座事態に足を運んでもらいづらかった点が散見されるため、オンラインでの参加が可能だという事も大きく宣伝していく必要があった

【次年度に向けての課題】

・チラシや SNS だけでなく、瀬戸市の皆様にダイレクトに届くような告知の方法を再度考える必要が有る

・補助金以外に出資限がないのにもかかわらず、決算額がオーバーしてしまったため、想定外の出費が多かったことが分かった。今年度の活動を通して、来年度の予算編成を練り直していく必要が有る。